

Y2-31

新人看護師が赤十字病院を選択した理由

山梨赤十字病院 看護部¹⁾、
水戸赤十字病院²⁾、
成田赤十字病院³⁾、
葛飾赤十字病院⁴⁾
根本とよ子¹⁾、藤田けい子²⁾、石渡 祥子³⁾、
舩森とも子⁴⁾、内木 美恵⁴⁾

【目的】東部ブロック看護部長会ホームページの活用状況及び病院選択の情報収集方法を調査することにより、看護師確保対策の有効な方策を明らかにする。
【方法】東部ブロックの20病院に平成22年4月入社した看護職員824名を対象として1)属性2)現在の病院に就職した理由3)病院就職に関する情報収集方法4)ホームページ閲覧の有無5)ホームページに望むことについてアンケート調査を実施した。

【結果及び考察】アンケート回答数は558名(回収率66.7%)、年齢は20~23歳が58%、24~29歳が27%、学歴は専門学校49%、看護大学37%、短大9%、赤十字教育機関卒業は29%であった。職種は看護師80%、助産師10%であった。病院に就職した理由は、(1)看護の専門性・教育・キャリア(2)通勤・地元・立地(3)実習など看護の体験(4)奨学金・支部推薦(5)病院の雰囲気・印象などであった。情報収集方法は、病院ホームページ23%、就職説明会21%、病院看護部のパンフレット15%であった。東部ブロック看護部長会のホームページを閲覧したことがある人が17%、参考になった項目は、病院情報、新人看護師の声、インターシップ採用試験の日程の順であった。ホームページに望むことは、赤十字活動に関する内容、病院の雰囲気、見やすい工夫などであった。以上より東部ブロック看護部長会ホームページは、17%の看護職が閲覧していた。看護学生の活用状況を増加させるためには、内容を充実させ存在自体を広報することが必要である。また、看護学生が情報収集する効果的な媒体は、病院のホームページ及びパンフレットであることから、これらの内容の充実が効果的と考える。また、病院選択理由から、教育の充実、実習病院、就職説明会などが看護師確保に有効な方策であるといえる。

Y2-32

新人看護師研修制度における「多重課題」研修の評価

前橋赤十字病院 看護部
三枝 典子¹⁾、田村 教江²⁾、福田 富江³⁾、
前田 陽子⁴⁾

新人看護師研修制度は義務規定として「保健師助産師看護師法」に明記され、当院は2008年度より新人看護師研修制度を導入している。4~6月を、研修期間とし各部署をローテーションし、7月配属となる。研修期間中は毎週水曜日をoff-JTとし20プログラムの研修内容を受講している。配属後のoff-JTは11プログラムあり、2009年度より「多重課題」研修を導入している。研修の目的は、日々の看護業務の中で発生する多重課題や時間的切迫な場面において、安全かつ的確に対処することである。目標は、1.状況に応じた優先順位が選択できる。2.正確な看護ケアが提供できる。3.自分の能力の限界を知り、先輩ナースに応援(報告・連絡・相談)を求めることができる。4.患者に対し、適切な態度や言葉遣いができる。5.自己の行動を振り返ることができる、としている。研修は半日とし、企画者がシミュレーション学習(状況設定・患者設定・方法)を作成し、模擬設定した病室の中で、研修生はシミュレーションを4分間実施し、それらをビデオ撮影し4分間鑑賞後、評価者と振り返りを3分間実施し、研修終了後全体でフリーディスカッションとフィードバックを行った。今回、新人看護師のアンケート結果から、研修の企画内容、研修目的・目標の達成度を評価した。

【目的】新人看護師に実施している「多重課題」研修の企画内容・方法の評価と目的・目標の達成度を評価する。

【方法】研修を受講した新人看護師46名へのアンケート調査。

【結果】研修の企画内容・方法に対しては、98%が適当であったと回答した。目的の達成度については、96.6%が理解できたと回答し、目標1・5の達成度については、90%以上ができたと回答した。目標3は42.4%があまりできなかったと回答し、今後の課題についても検討した。